

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援放課後等デイサービス リーチ		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 25日		2026年 3月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数) 1人
○従業者評価実施期間	2026年 1月 25日		2026年 3月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数) 9人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 4日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	満足度が高く日頃から保護者さんとコミュニケーションが取れ利用者の様子やニーズについて連携がとれる関係を築けている事が予測される。	面談を設けゆっくり話せる時間を取っている。職員を固定化せず2名以上で対応し連携や複数の意見を取り入れながら方針を定めることができる。	保護者会や意見交換会などの実施で更なる情報提供やニーズを把握する場を設けることを検討。事業所のカラーや取り組みについて知ってもらう機会を作る
2	利用者が通所を楽しみにし、学校や生活の励みになっていると記載されていた	メインの活動は学習であり、放課後時間をさらに学習時間として過ごすことに抵抗感がある児童が多いはずだが学習後の余暇時間、スタッフとの関わりを持ちながら過ごせる時間のバランスが児童にとって励みとなり通所を楽しみにしている様子が記されていた。	サービスの質を5領域に沿った専門性の高い内容へ取り組む。専門職員からの専門スキル向上の研修の実施
3	学習の習慣化を目指すための取り組みとしてトークン制度の効果が表れている	トークン制度の内容 週一回のご利用を5回行えばスタンプがたまりご褒美がある。スタンプで児童の視覚にアプローチし、回数を重ねる楽しみとなっている。	就学に向けた準備のための学習支援スキル向上を図り、月齢に応じた専門性のある支援内容を提供できるようアセスメント等に力を入れる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援、父母の会の項目で評価できないと回答している利用者様が多く、改善が必要である。	事業所内で留まらず保護者や地域を含めた活動の必要性が課題である。	保護者、地域のニーズ把握に努めながら、職員の専門性を高め、事業所としてニーズに対応するスキルアップを目指す。研修参加や事例検討の頻度をあげる。
2	インクルージョン推進項目で獲得点が低いこと	行事や地域交流イベントを企画し、周知を行う。	地域イベントへの参加企画や、地域施設の利用などを設けて参加者を募る。インクルージョン推進の目的を周知する。
3	災害、避難訓練の実施項目について獲得点が低いこと	避難訓練、有事に必要なシミュレーションを実施している。保護者や利用者へ実施日、実施結果等が共有されていない。	避難訓練、実際に起きたときのシミュレーション内容、実施日、実施目的や結果を随時に保護者に周知を行う。利用者には発達に応じた方法で正しい目的を伝えたいという訓練を持続する。